

## ギボウシの栽培

ギボウシ (Hosta) 属

日本・中部以北の山間地、東アジアに30~40種分布すると言われる

耐寒性多年草。葉は根生し有柄である。強健で栽培しやすく、古くから園芸に用いられ、多くの雑種・品種が生じた。

### 品種

奥飛騨 (完売) 草丈60cmほど。葉は厚く長ハート型、濃緑色で艶があり、茎は頑丈である。

切り葉として理想的で、和洋ともに向く。花は淡青色で花茎は0.6~1.0m。

NEW! パトリオット 2018年4月頃より販売。草丈65cmほど。中型で、深緑色に真っ白な覆輪斑が入る。

日光への耐性はかなり強く葉焼けしにくく、ナメクジにも強い丈夫な品種。7月にラベンダー色の花が開花。

NEW! アースエンジェル 2018年4月頃より販売。草丈75~90cm。青緑色に淡い黄色~クリーム色の覆輪斑が入る。

大型品種で、切り葉用の栽培では施肥量を減らしてやや抑え気味にして、締まった茎葉を作るのがお勧めです。

大鉢での栽培も面白い。

### 適地

乾燥しすぎない場所が良い。半陰性植物で光が入る樹の間や、

夕陽のあたらないところで良品が出来る。

### 定植時期

裸苗の場合は早春または晩秋、芽の動かない休眠期に行う。ポット苗の場合は春の定植が良い。

### 定植間隔

長期間の据え置き栽培を考慮し、ベッド幅60cm・通路幅40~50cm、条間30cm、株間30cm、2条千鳥植えが適当。

### 施肥例

基肥：堆肥3~5t 窒素：リン酸：カリ=5：5：5kg (成分量) /10a

追肥：窒素：リン酸：カリ=2~3：2~3：2~3kg (成分量) /10a

※ 緩効性肥料を用います。

マルチ：敷き藁3cmなど、乾燥を防ぐ

### 管理

茎が硬く葉色が綺麗なものを作るようにする。乾燥は良くないが、適度な通風により茎の難弱化を防ぎ、遮光の程度により葉色を調整する。パイプハウスに古ビニル+遮光ネットを張ることにより、葉色抜けや焼けを防ぐようにする。光が弱い時期は遮光を外し、株の養成に努める。十分に養成が出来た株から出荷を始める。畝一杯に株が張ってきたら株分けを行う。あまり小さく分けて、5芽以上つけておくと、収穫までの期間を短縮できる。

### 出荷

葉茎が硬くなった段階から収穫可能。株元で切り取り収穫する(株養成のために葉は残すようにする)。

大きい葉から重ねて5枚~10枚を1束、50枚~100枚/箱とする。花も出荷する場合、花3本に葉7枚の通例もあるが、特に決まりはなく、消費に合わせることになる。萎れ難い品種であるが水揚げは十分に行う。

### 病害

害虫はほとんどないが、ナメクジに注意する。斑紋病、サビ病は予防しておく。